

様式1

平成28年度 学校評価自己評価表

世羅町立世羅中学校

a ミッション		bビジョン													
自校や郷土に誇りと愛着を持ち、地域に貢献できる品格のある生徒の育成 主体的に問題解決に取り組み、創造性に満ちた表現豊かな生徒の育成		学び合う学校文化の推進													
評価計画					自己評価					学校関係者評価					改善計画
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
確かな学力の向上	各教科で、各学年1単元の、課題発見学習や課題解決学習の授業改善を図る。	・シミュレーション授業を基本とした授業研究を行い、授業改善を図る。 ・教師のゆさぶり発問を行い、課題意識を高める。 ・ペア学習を活用し、生徒の関わりを深め、共に課題解決に取り組ませる。	・各教科、単元開発を行い、授業を行い改善した。	100%以上	-			D	・シミュレーション授業は、校内授業研究ごとに行うことができ、年間11回の予定中、9月末で5回実施した。授業改善を図ろうという意識の高まりが出てきている。 ・単元開発は、音楽・総合・理科で実施した。10月末には、社会・技術を除く全教科で実施する予定である。			○	・組織的に「学びの革新」を推進してほしい。今後、更に中学校と高等学校との「つながり」を強化していただきたい。 ・現段階で大部分の教科が既に授業改善の取組が実践されており、評価Dとする必要はないと思う。	・これからも、計画的にシミュレーション授業を実施していく。また、実施にあたっては、生徒の意欲を引き出す導入や、意見を関わり合わせることにより、授業や協議を行うようにしていく。 ・研究主任と連携を取りながら単元開発を行い、実践できているか進捗状況を確認していく。	
	能動的学びを通して、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	・基礎学力定着のため、プリント学習を継続的に行う。 ・各種学力調査の課題を分析し改善計画を立て、授業でのドリル学習を行い、学力の定着を図る。 ・授業と家庭学習の課題を継続的なものし、家庭学習時間を定着させる。	・「話し合い活動で考えを深めたり広げたりすることができる」という生徒の肯定的評価の割合。	県平均3ポイント以上 5ポイント以上 80%以上	71%	2/8			D	・授業改善として、生徒に疑問を持たせ考えてみようという思いを起させるような発問に、まだできていないという課題がある。 ・ペア学習は取り組んでいるが、ただ意見を出すだけになっており、意見を深めるといったレベルまで至っていない。			○	・公開研究会などの授業を参観したが、授業が生徒主体の授業へと変わってきていると感じられた。	・シミュレーション授業や、日頃の授業観察を通して、知的好奇心をくすぐる発問ができるように指導をしていく。 ・ペア学習が、効果的なものになっているのかを、授業ごとに授業評価表や生徒アンケート等の活用により検証し、意見が深まるようにペア学習の持ち方を研修していく。
			・「基礎・基本」定着状況調査、「全国学力・学習状況調査」の通過率 ・課題となった問題の解答率の向上 ・家庭学習時間1年90分、2年100分、3年120分以上している割合の向上	県平均3ポイント以上 5ポイント以上 80%以上	29%				D	・「基礎・基本」定着状況調査は、国語と英語は県平均を上回ることはできたが、3ポイント以上は達成できなかった。また、数学と理科については、県平均より低い状況であった。 ・「全国学力・学習状況調査」では、国語Aでは県平均を下回ったが、国語B、数学A・Bともに県平均を上回った。また、数学においては、県平均を3ポイント上回った。 ・家庭学習は目標にしていた80%を大きく下回り、29%となった。これは、家庭学習の定着が図れていないという課題の表れである。			○	・昨年度から高等学校の入試にも活用力を問う問題が導入され、難易度も高くなっている。「学びの力」をつけるには、時間がかかるため、今後も取組を更に充実させてほしい。 ・家庭学習の定着を図るため、生徒への取組だけでなく、合った内容を更に工夫する。また、宿題だけでなく、生徒が自主的に勉強したいと思えるように、授業の中で「分かった」「できた」という実感を持たせるような授業改善を図っていく。	
豊かな心の育成	学校に居場所をつくる。	・家庭との連携を緊密に行い、教育相談活動を充実させる。 ・環境整備を行うとともに、個別支援を充実させる。	・欠席日数30日以上の生徒の数	昨年度の70%以下	3人 昨年度の23%			A	・9月末で不登校生徒数は3人で、昨年度より減少傾向にある。不登校傾向の生徒に対して、生徒への声掛けや、保護者との連携を図るようにしている。 ・個別支援の充実を図るため、個々の教員が授業の空き時間等にかかわりを持つようにしているが、毎時間常にかかわっていないという課題がある。			○	・「学校へ来るのが楽しい」という割合が増えているのは、良い事である。 ・昨年度と今年度では、考察する集団が異なるので、目標の達成をどう考えるかを検討する必要がある。 ・将来を力強く生き抜くため、「レジリエンス」の視点も必要に思う。	・今後も、気になる生徒に関しては、生徒への声掛けや、保護者連携を密に行い、学校での居場所づくりを進めていく。 ・教職員同士の連携をさらに充実させ、個別指導を更に充実させていく。	
	互いの良さを認め合い、共に感動できる集団を育成する。	全員で行事に取り組む学校集団にする。	・教職員がすべての行事に率先して関わる。 ・生徒会役員をリーダーに育てる。	・各行事後における生徒アンケートの肯定的評価の割合	85%以上	90%			A	・教職員は、生徒と一緒に練習に参加し、率先して生徒の指導に当たることができた。 ・生徒会役員が中心となって行事を進めるとともに、体育大会では、各組のリーダーが意欲的に取り組むことができ、達成感を持つことができたと感じる。			○	・生徒の主体的な取組を支援する教員の姿勢が、生徒の自己肯定感を育てていると感じる。	・今後も、行事には生徒と共に積極的に関わり、生徒の思いを汲み取りながら、粘り強く行事に取り組む生徒を育成していく。 ・生徒会役員を中心に、実行委員会を組織して、自分たちで考え企画し、運営をしていくようにこれからも支援をしていく。
健やかな体の育成	心と体の健康を保ち、生徒の体力の向上を図る。	瞬発力及び筋力を高める。	・保健体育科の時間に、補強運動として筋力トレーニングを位置づける。 ・保健体育科や部活動で、ダッシュなど瞬発力をつけるトレーニングを取り入れる。	・握力と50m走の前年の県平均との比較	60%以上	17%			D	・保健体育の時間に、補強運動を行ったが、握力では3年男子と1年女子しか県平均をクリアすることができなかった。 ・走ることを部活動でも多く取り入れて行い、ダッシュも行ってきたが、50m走の走力を上げることが今回は出来なかった。			○	・昨年度の実態を考慮した場合、目標値が妥当なのかどうか分かりにくい面がある。 ・組織的な体力向上のための取組を推進してほしい。	・保健体育の授業や部活動の中で、筋力特に握力を高める運動を繰り返し行い、筋力アップを図るようにしていく。 ・保健体育の時間や部活動の時間に、走ることに特に、瞬発力をつける練習を必ず取り入れる。また、駅伝シーズンになるので、持久力も鍛え、本気で真面目に取り組む生徒を育てる。
特色ある学校	創造性に満ちた表現活動の充実を図り、世羅中の学校文化を創造する。	合唱と舞台表現力を高める。	・自分たちが企画運営させ、合唱と舞台表現力をより高める。	・文化的行事での保護者アンケートの肯定的評価の割合	90%以上	99.2%			A	・体育大会での表現活動に関する項目で、「ダンス」「チア・タイム」の保護者のアンケートでは、99.2%と高い評価をいただいた。 ・「ダンス」「チア・タイム」も生徒が中心になって企画し、自分たちがリーダーとなって指導をしたことで、意欲的に取り組む生徒が多く、保護者からの高い肯定的評価をいただいた。			○	・素晴らしい取組を実践されていると思う。 ・体育大会での表現活動において、評価とおりの生徒の意欲的な取組が見られた。	・今後実施を予定している合唱や文化発表会において、生徒に役割意識をしっかりと持たせて、一生懸命取り組めるように、個々の生徒に対してアドバイスや支援を行っていく。 ・一部の生徒に、本気でやろうとしない面がある。それぞれの生徒に役割を持たせて、やる気が出るような声掛けを工夫し、全員が達成感を持てるように取り組んでいく。

【自己評価 評価】
 A：100≦(目標達成)
 C：60≦(もう少し) < 80
 B：80≦(ほぼ達成) < 100
 D：(できていない) < 60
 【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。